YMCA NEWS 金沢青年
No.28（2021 年11月号）

発行所：金沢キリスト教青年会 〒920-0998 金沢市里見町 44－1 里見町タウンハイツ 201
TEL/FAX（076）255-7782
http://sophiruka.sakura.ne.jp/kanazawaymca/index.html

2021 年度金沢 YMCA 定期会員総会を開催

2021 年 7 月 17 日(土)17:30～20:00、長土塀青少年交流センター3 階の学習室 3 にて、2021 年度金沢 YMCA 定期会員総会が開催された。財団法人に関する法律改正に伴って、金沢 YMCA は公益認定を受けない「一般財団法人 金沢基督教青年会」として 2014 年 3 月 31 日に新たに認可された。その定款には総会についての定めがなく、議決機関は理事会と評議員会のみとなっているので、定款に基づき、総会は報告会と懇談会で構成することにし、以下のようなプログラムで実施した。

【プログラム】

開会宣言・総合司会：理事 幸正一誠
開会挨拶：理事長 朝倉秀之
Ⅰ．開会セレモニー：司会 田口昭典
交読文：「日本 YMCA 基本原則」 一同
讃美歌：234 番 A 1・2 一同
聖書：ヨハネ福音書第 15 章1節～5 節 司会
祈祷：司会、讃美歌：234 番 A 3・4 一同
Ⅱ．報告会：司会 朝倉秀之
1．2020 年度活動報告と 2021 年度活動計画
2．2020 年度収支決算報告と 2021 年度予算案
3．その他
Ⅲ．懇談会：司会 平口哲夫
テーマ「金沢 YMCA の将来構想」
Ⅳ． 閉会セレモニー：司会 幸正一誠
祈祷：司会、YMCA の歌：一同

【懇談会】 発題要約

発題 1 理事 田口昭典「金沢 YMCA の理念と活動について」

金沢 YMCA が今日行なっていること、行おうとしていることは、そのほとんどが既に一般社会の様々なグループが取り組んでおり、リーダーシップをとっている。金沢 YMCA には長い歴史と活動実績があるが、今や風前の燈火の状況にあることを認識することからスタートしなければならない。

1．世の人々が YMCA に何を期待し、望んでいるのか。私たちはこの地域ニーズを把握していない。

2．金沢 YMCA の理念・使命：金沢 YMCA は聖書に証された愛と奉仕の働きを進め、また、社会正義の実現を祈る。あらゆる宗教や思想を超えて、隣人に仕えるという一点において連帯し、日本 YMCA 同盟を通して世界の YMCA と繋がり、世界平和の実現のために励む。

3．具体的活動の指針

①ボランティアスピリットを涵養し、助けを必要とする人々に仕え、支援活動を行う。

②人間性が尊重され、差別がない社会を作り出すために、学び、出会い、分かち合い、理解を深めるプログラムを展開する。

③世界平和の実現のため諸団体と連帯・協力。

④異文化交流を進め、相互理解を深め、豊かな地域社会を構築。

4．財政計画：金沢 YMCA 再建のためには現在の予算規模を最低 10 倍程度にする必要がある。

発題 2 常務理事山内ミハル「シングルマザー家庭の支援とユースリーダーの育成」

1．シングルマザー家庭の支援

2019 年、JC(金沢青年会議所)からの依頼を受け、ひとり親家庭の支援のためのデイキャンプ(JC 主催「ソトゴハン～ひとり親家庭の絆プロジェクト～」)に、金沢 YMCA は協力団体として参加。金沢ワイズメンズクラブの会員(全員が YMCA 会員)とその配偶者の協力を得て計画・準備をし、学生 5 名のユースリーダー訓練として北陸学院バーベキュー場で飯ごう炊飯の実習もした。

当日、医王山のバーベキュー広場で開催されたデイキャンプは、費用全てを JC が負担、JC のメンバー10 数名が中心になって実施。20 数組のシングルマザー親子（50 余名）と JC10 数名、ユースリーダー5 名、金沢クラブ 7 名、金沢 YMCA3 名が参加。昼食後の後片付けをしてから、シングルマザーたちと JC の委員長と山内とで懇談会を開き、今回の感想や日頃抱える悩みなどについて話し合った。ほとんどの方々から、このような会を今後もぜひ開催してほしいとの要望があったが、残念ながら昨年、今年とコロナ禍のため開催できないでいる。

その後、一部のシングルマザーたちとは繋がりができているが、コロナ禍終息後に再度行う場合、以下のことを考慮する必要がある。

・各家庭の事情により名簿を作成ができないので、繋がりのできたシングルマザーと連絡をとるか、大量にチラシを作って募集するほかない。

・経費負担、コロナ禍で職を失った家庭の問題。
・ユースリーダーの育成：毎年中学生を対象にしたキャンプの実施、定期的な活動を計画、リーダー研修会を月 1 回ほど実施、YMCA ユースリーダーとの交流会を実施。

発題 3　評議員　井川英二「北陸学院と金沢 YMCA との協力」

1. わいわい農園体験
・北陸学院三小牛キャンパスの農地を借りて毎回 3～4 名で作業（オーナー制で 1 名参加）。早朝に行なってきたが、今年度から少し時間を遅らせた。
・例年、耕作代として耕作者に 1 万 5000 円支出、そのうち 1 万 2000 円は北陸学院大学の福江ゼミからの経費で賄われるので、実質 3000 円で農具・水栓・保管場所・駐車場を確保。実費として支出しているのは肥料代・種代・苗代ぐらいである。
・収穫物は販売しても寄付してもいいが、寄付した場合、農園作業は赤字会計になる。寄付対象としては、ひとり親家庭・子ども食堂・学生など。
・問題点①：近年、獣害が多発し折角の作物が収穫できないこともあり、頭を痛めている。小学校で電気柵を設置してもらったが、充分な対策ではない。今後は、獣の忌避する作物を育てるのがよかろう。
題点②：農園を献身的に管理してくださっていた先生が今年度で退職。今後小学校の農園がどのように運営されるか、現時点では予測できない。

2. たけのこ掘り体験
・昨年、一昨年とコロナ禍の影響で実施を見送った。来年度はコロナ禍がおさまり、一緒に「たけのこ料理」の食事ができるようになればと願っている。
・業者によって高く積み上げられた竹が数カ所ある。竹の有効利用ができないものかと考えている。

会員の高齢化もあり、「農園体験」も「たけのこ掘り体験」も継続していけるか不安。人の役に立ち、やりがいのあることは若者も大切に思っているだろうが、農園など 3K に近い作業は敬遠されるかも。

今後、やってみたらと思うこと：チャリティコンサート、サイクリング、ハイキング、登山、障がい者との交流、寄付型クラウドファンディング

総会終了後に記念撮影

（文責　平口　哲夫）

2021 年度秋の金沢 YMCA クリーンキャンペーンに参加して

金沢 YMCA 評議員　朝倉　みゆき

10 月 16 日（土）　8 時　晴れ。金沢市青少年団体連絡協議会（略称：青団連）主催のクリーンキャンペーンに金沢 YMCA 会員としてお声を掛けていただき、この秋にも参加しました。毎年ご協力いただいている、犀川桜橋橋詰の鈴木建設会社の駐車場をお借りして駐車しました。

最初から参加した 7 名（伊藤仁信、數澤輝夫、數澤淑子、幸正一誠、山内ミハル、朝倉秀之、朝倉みゆき）が輪になって開会のセレモニーをしたときの生き生きとした顔が印象的でした。幸正さんの感謝のお祈りが澄んだ空気の中に響きました。

「では！」と金沢市からいただいた竹箒、熊手、塵取り、鎌と皆新しい道具をそれぞれに手際よく渡されて清掃開始です。大きな竹箒を渡されて、私は「魔女の宅急便」のキキになった気分になりました。頭の中に物語を思い出しながら、W 坂の階段に溜まった沢山の枯葉を掻き集めました。

一番上の石段を數澤淑子さんが掃き、伊藤さんは中程を掃き、石段横の石垣にはクズの蔓がうっそうと延びて茂り、幸正さんが鎌で掻き取り、「あー、明るくなった！」と掃きながら山内さんが声を掛けていました。そこへ平口哲夫さんが自転車で駆け付けたので、参加者 8 人になりました。

石段を掃く人、溝を掻く人、ごみ袋に詰める人、段取りの良い動きはこれまで続けてきた YMCA のいろいろな活動の力だと思いながら手を進めました。數澤輝夫さんや平口さんはその様子をカメラに収めてくださいました。長い蔓や枯葉の入った大きなごみ袋を 1 ヶ所に集め、「月曜日に市役所に連絡しときます！」と幸正さんが連絡を引き受けてくださいました。

9 時 20 分頃、朝倉と私は次の予定があるので、一足先に失礼しました。8 人元気に奉仕活動ができ、感謝しながら駐車場を後にしました。

2021 年 10 月 16 日　ゴミ収集したビニール袋の傍らで

2021 年度金沢 YMCA わいわい農園体験の報告

金沢 YMCA 評議員・わいわい農園体験委員長 井川 英二

朝の寒さが強くなり、モミジが少しずつ色づき始めた。そろそろ「わいわい農園体験」も終盤を迎える季節になった。

故・北肇夫委員長から引き継いだ作業に取り組みながら、北さんのお元気だった頃のことが思い出される。「わいわい農園体験」の作業が委員長の大変なご努力の上に成り立っていたことを改めて思った。毎週の仕事の段取りから管理に至るまで、週 1 回の作業日だけではとてもこなしきれないことを、私たちの目に触れない所で黙々とされていた。実際に同じ立場になって、北さんのお働きの大変さがよく分かった。感謝に堪えない。

さて、2021 年度の「わいわい農園体験」だが、桜の咲く頃、農家の方が耕運機で畝作りする前に消石灰をまき肥料を入れた。大学の福江ゼミへも同じように行なった。畝が出来た所に昨年収穫し保存していた種芋を植え付けた。植え付けは北さんがされていたので要領も分からず直植えにした。北さんは芽が出てから植え替えしていたとのことを後で知ったので、果たして芽が出るのか心配だったが、小さい芽が出たときは正直ホッとした。その後は、昨年に行なっていたことを思い出しながら、藁を敷き追肥をしながら里芋の生長を見守った。

他にも枝豆やオクラを植え、ある程度の収穫を得ることができた。室山さんが植えたネギが猿の侵入のせいでほぼ全滅したことは、本当に残念だった。20 匹以上の猿が一気に入ってくるので、無残な結果になってしまったのである。

猿の侵入を防ぐために電気柵を設置していたが、その柵を跳び越えてきたようで、電気柵を高くして電線を一本増やした。その後は猿の姿を見ることはあっても畑の中に入ることはなかったようである。小学校の方でも毎朝、爆竹を鳴らしてもらったことも効果があったようだ。

11 月 13 日（土） サトイモの水洗作業

今の季節、最終的にはわいわい農園に残ったのはサトイモとオクラだけだった。サトイモもオクラも猿の忌避植物なので次年度はそういう作物を中心に植えればと思う。昨年は大部分のダイコンをかじられたので今年度は行わないことにした。

「わいわい農園」で育てたものではなかったが、キンジソウやナスビ、タケノコや富有柿、そしてキウイなども四季の恵みとして少しいただくことができた。スケトシアやコスモス、ヒャクニチソウが人の営みに関係なさそうに静かに咲いていた。

次年度に「わいわい農園」をどのように行うかは検討中である。夏休みなど、日を合わせて福江ゼミと一緒に作業しても良いかもしれない。

2017 年度金沢 YMCA 活動についての報告

金沢 YMCA 理事 平口 哲夫

2017 年度は、「たけのこ掘り体験」、「クリーンキャンペーン」、「わいわい農園体験」、「ながまちふれあいフェスティバル」、「ユニセフ街頭募金」が主な活動であったが、このうち「わいわい農園体験」以外の活動について報告する。いずれも故・北肇夫評議員が金沢犀川ワイズメンズクラブのブリテン(月報)で報告しているので、それを改変して紹介する。

【たけのこ掘り体験】

日時:2017 年 4 月 29 日（土・祝）、場所:北陸学院・三小牛キャンパス。参加者:子ども・保護者・学生リーダーも含めて 25 名が参加。晴天下、汗ばむほどの陽気となり、当地の八重桜は花吹雪の真っ盛り。

竹林付近の空き地で行われた開会式では、朝倉秀之理事長の挨拶と澁谷洋太郎理事の祈祷のあと、たけのこ掘りについてのガイダンススがあった。

たけのこ掘り後の昼食は、昨春同様、北陸学院小学校の家庭科教室で行われた。事前に準備されたタケノコご飯やタケノコ煮物、山菜などの天ぷら、漬物、果物、会場で作ったタケノコ味噌汁を味わった。食事の準備から片付けまで金沢 YMCA の朝倉理事長ご夫妻、事務局の齋藤しのぶさん、澁谷理事、澤瀬諭監事のお働きが大きく、また、現地参加はできなかったが、食事の準備には金沢犀川ワイズメンズクラブの澤瀬・北両メネットにご尽力いただいた。

今年はタケノコの裏年に当たったが、お土産用のタケノコは事前に確保してあり、食事・歓談後、掘り

たてのタケノコとタケノコ弁当と共に参加者に配布され、無事解散となった。

【春のクリーンキャンペーン】

“金沢百万石まつり”間近の 2017 年 5 月 28 日（日）早朝、金沢市青少年団体連絡協議会(青団連)主唱のクリーンキャンペーンに金沢 YMCA と金沢ワイズメンズクラブ゛・金沢犀川ワイズメンズクラブが呼応して参加した。

ステージⅠでは、金沢 YMCA 事務所と竪町商店街周辺にて、金沢 YMCA の朝倉理事長ご夫妻、金沢クラブの澁谷・数澤会員、金沢犀川クラブ゛の北会員、計 6 名が清掃作業を行なった。

ステージⅡでは、新桜坂緑地(通称 W 坂)にて金沢犀川クラブの竹中・北会員が参加して行われた。新桜坂緑地全体(園地と階段部)の清掃作業により、ゴミの量は事前に収集した枯葉も含め、45L 入り 10 袋という多さになった。この作業には、竹中会員゛持参のブロアー(エンジン付き掃除機)が威力を発揮し、時間短縮に繋がった。

【秋のクリーンキャンペーン】

“金沢マラソン”開催間近の 2017 年 10 月 15 日（日）早朝、金沢市町会連合会主唱の全市一斉美化清掃に地元町内会「石交会」と金沢犀川クラブが呼応して合同参加した。実施場所は新桜坂緑地(W 坂)で、参加者は「石交会」関係の 2 名と金沢犀川クラブの澤瀬会員・竹中会員・北会員夫妻の計 6 名。

清掃作業は上下段の園地と階段部と広範囲で行われたが、ゴミ(枯葉が 45L 入り 6 袋、枯れ枝 2 束)の量は少なかった。この作業には、今回も竹中会員持参のブロアーが威力を発揮し、時間短縮に繋がった。作業後、高台の展望所で城下町を背景に集合写真を撮り、お茶で喉を潤しながら歓談した。

なお、今回の清掃活動は金沢犀川クラブの行事として実施されたが、後年、金沢 YMCA の行事として定着したことから、本稿にも記載することとした。

【ながまちふれあいフェスティバル】

“ながまちふれあいフェスティバル 2017”は、11 月 26 日（日）10:00～15:00、同実行委員会・金沢市青少年団体連絡協議会(青団連)主唱に金沢 YMCA・金沢クラブ・金沢犀皮クラブ゛が呼応して参加。中央公民館長町館と長町緑地にて青団連加盟 9 団体と公民館利用ｻｰｸﾙ 17 団体が参加。

屋外ステージ゛では当行事のキャッチコピー“支えあう みんなの笑顔 ながまちフェスタ”の応募者表彰や多彩なステージが展開され、模擬店の売り声や餅つきの掛け声に会場が包まれた。館内では活動紹介やクラフトなどの体験コーナーなどがあり、スタンプラリーに挑戦する学童の声が響いた。

【ユニセフ街頭募金】

2017 年 12 月 23 日(土・祝)午後、金沢市青少年団体連絡協議会主唱の「第 39 回ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金～子どもたちに生きるチャンスを～」に参加。この時期には珍しい好天のなか、金沢 YMCA から朝倉理事長と大学生1名、金沢クラブ゛3 名、金沢犀川クラブの会員夫妻・子ども・孫たち 6 名の計 9 名で、例年のごとく竪町商店街入口付近にて募金を呼び掛けた。“若者の街・ファッションの街”での募金総額は 9,722 円、昨年の 7 割と低迷ではあったが、ご厚志とご協力いただいた方々に心から感謝申し上げます。

【YMCA ブランドロゴ】

鳥が飛び立とうとする瞬間の姿を、アルファベットの Y が想起される形に重ね合わせ、右上の赤い逆三角形には、YMCA 正章に記された「全人」の精神と、YMCA が約束するブランド価値「みつかる、つながる、よくなる」の両方が込められている。また、曲線と赤い色によって、生命感と、希望ある豊かな社会を実現して行こうという YMCA のポジティブな姿勢を示している。愛称“ポジティブ Y”。

YMCA 正章

★編集後記★ なんとか 4 ページ内に収めました。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

YMCA NEWS 金沢青年 No.27
編集委員：平口哲夫(編集長) sophiruka@yahoo.co.jp
朝倉秀之・山内ミハル
発行者・発行日：金沢 YMCA・2021 年 11 月 30 日
発行所：金沢 YMCA 事務所
〒920-0998 金沢市里見町 44-1-201
TEL/FAX 076-255-7782
理事長 朝倉 秀之
asahide0927@gmail.com

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆